

講師：濱野かほる（岐阜県美術館 普及業務専門員）

第1回 7月27日(土)

- ・対話型鑑賞とは1（始まりと日本での歴史）
 - VTS (Visual Thinking Strategies) 見て、考える、手法
 - 見て考えたことを言葉にする（アウトプット）
 - 日本では対話型鑑賞、あるいは対話による鑑賞などの呼称
 - VTC (Visual Thinking Curriculum) 子供向けの鑑賞方法 1980年代から MoMA で鑑賞力、思考力（論理的思考・批判的思考・創造的思考力）、コミュニケーション力
- ・2019年 ICOM 京都大会で提案され、翌プラハ大会にて結託された新しい博物館の定義によれば、ミュージアムは、作品はもちろん「他者と出会う場所」
対話型鑑賞のこつ
 1. ナンでも話す
 2. 人の感想を肯定的に受け取る
 3. 自分とは違う考えや感想の出会いを「多様な価値観」と肯定的に考える
- ・展示室で三岸節子の作品を鑑賞 約20分間
→ 講義室に戻り、グループに分かれて感想を共有
(10分間休憩)
- ・参考動画 TED トーマス・P・キャンベル「美術館の展示室で物語をつむぐ」
- ・対話型鑑賞をやってみよう（プロジェクターを利用した鑑賞）
ティツィアーノ「キルトを付けた男の肖像」、レオナルドダヴィンチ「モナ・リザ」、ゴッホ「靴」を見て、それぞれに感想。
- ・アルタミラの洞窟
 - 何かを伝えたい・表現したい・・・人類の根源的欲求
 - 伝えたい・表現したい・・・対話型鑑賞には、人類が生きていく上で必要な要素が詰まっている。
- 昔は人々があつまる身近な場所にもっと美術があつた、現在は美術館に。
- ・対話型鑑賞の何が良いのか？
他者の視点を聞いてさらにイメージーションを膨らませる。クリエイティブな鑑賞。
自分の目を見て、頭で考えて、言葉で語る・・・人間が生きていく上で必要なスキル（大人も子供も）→生きていく力につながる



第2回 8月3日(土)

●ファシリテーターについて

- ・場を進行する役割
- ・作品情報は話さない(自由な発想を止めないようにするため)。
- ・ファシリテーターはあくまで聞き手であり参加者に語ってもらう(参加者は発見したことを何でも話しても良い)。

「鑑賞者が自ら作品の中に飛び込んで作品の世界を泳ぎ回り、隅々まで探索して作品の要素やヒントを集めて深く味わう体験を共有する」⇒自分一人では辿りつけなかった鑑賞体験の境地へ!

●作品分析をしよう(ワーク発案者 NPO 法人芸術資源開発機構 (ARDA) 代表 三ツ木紀英)

6チームに分かれ、それぞれ三岸節子の絵のコピーを各グループに1枚ずつ配布

※絵はグループ全て異なる。タイトルは出さない。

(1) 2色のふせんにそれぞれ、客観的事実の要素と主観的感想(客観的事実の要素から思う事)を記す。

(2) 解釈のグループに分ける 人物→身分→生活→行動 などという風に

(3) 作品にタイトルを付ける

「自画像」グループ→「赤い決意」「静かな炎」、「室内」グループ→「穏やかな時間」

「月夜の縞馬」グループ→「自由になりたい」、「飛ぶ鳥」グループ→「眠り」「充電」など

●さらに楽しい鑑賞体験

作品鑑賞はクリエイティブな作業

自分でものをよく観察して思考をめぐらす。 見る力=作品と一緒に思考をめぐらす力

ファシリテーターの問いかけ

- ・この絵の中で何が起きていますか?
- ・どこからそう思いましたか?

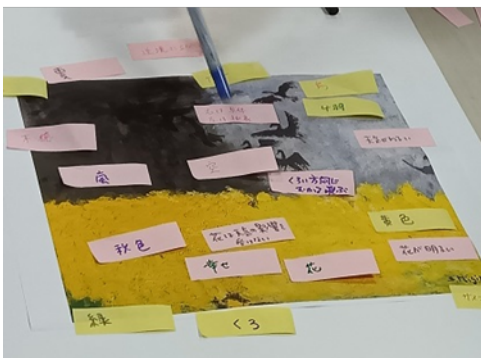
※「どうして」より「どこから」の方が、絵の中に答えを探せるので探しやすい

- ・ほかに発見はありますか。

VTS (Visual Thinking Strategies) の基本

- ・Pointing 指し示し: どの部分に焦点があたっているか
- ・Paraphrase 言い換え: 別の言い方でいえば、いうなれば
- ・Linking 話題をつなげる、別々の指摘をつなげてみる
- ・Framing 話題に沿ってつなげる、話題の枠組みを変化させてみる

終わり方は時間で終わるケースが多い。



第3回 8月10日(土)

●アイスブレイク 《ラオコーン像》を10秒見て、3名の人物ポーズを真似る。

●ファシリテーションにチャレンジ

<VTSの基本を確認>

・3つの声かけ(この絵の中で何が起きていますか?どこからそう思いましたか?他に発見はありますか?)

・行動(指し示し、言い換え、話題をつなげる、話題の枠組みを変化させてみる)

※指し示しは指ではなく、手のひらで。

<展示室に入る前に>

A4バインダーと鉛筆程度で、貴重品はポシェットなどに。スマホはマナーモードに。

<ファシリテーターのポイント>

自分が話すのではなく、参加者に話してもらおう。話を聞ききる。

中立な立場に徹する。笑顔で!

<参加者のポイント>

どんな些細な事でも構わないので、気になること気が付いたことを話してみる。

発言をするときは手をあげたり声をかけたり、他の参加者に配慮を。

他の参加者の話は最後まで聞く、途中でさえぎらない。

自分とは違う意見が出たとしても多様な感想が集まる場所であり、新しい感覚を聞く場として肯定的に受け止める。

それぞれ安心して話せる場になるように協力する。

<タイムキーパーのポイント>

鑑賞会が円滑に進むよう時間管理を行う。集中が途切れないように工夫を。移動時間も含めて考える。うまく合図をだす。

他の来館者も含め皆が心地よく鑑賞できるように協力をお願いする。

⇒5グループに分かれて展示室で鑑賞

1つ目の作品 14:20~14:40、2つ目の作品 14:40~15:00、3つ目の作品 15:00~15:20

●なぜ対話による鑑賞が注目されているのか

きく力(傾聴する、聞ききる)・みる力(注意を払う、空気を読む)・話す力(言語化、アウトプット)を養う。

相手を否定しない、肯定する。自分とは違う考え方、感じ方を多様な価値観と考える。

双方に満足感のある時間を持つ。

